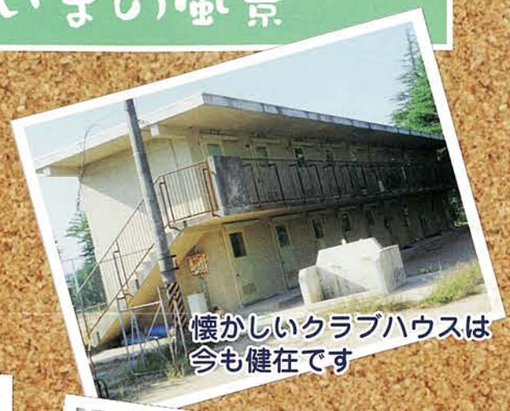
緑台高校のいまの風景

玄関もバリアフリーの
スロープが設置されています


懐かしいクラブハウスは
今も健在です

かなり美しいロータリー

きれいに整備された中庭

並木道も健在です

体育教官室
でっかい百葉箱（？）

北グラウンドは草が増えた？
集会場（卓球場）もあります

野球グラウンド周囲に人工芝が登場！

皆さんもぜひ学校に行ってみてください。

2008年11月

兵庫県立川西緑台高等学校同窓会報

緑の風

●編集発行／兵庫県立川西緑台高等学校緑友会　(Vol.7)
●発行日／2008年11月1日
●事務局／〒666-0115　川西市向陽台1丁目8番（兵庫県立川西緑台高等学校内）
TEL072-793-0361　FAX072-793-0520　URL. http://www.midoridai.jp/

創立40周年を迎え

緑友会会長　今村 加寿成

北摂の山々も秋の訪れとともに色づき始め少し冷たい風が吹く季節となりました、会員皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃何かと兵庫県立緑台高等学校校友会活動にご協力頂きありがとうございます。

私は、本年度より緑友会上田前会長の後任として緑友会会長の重責を務めさせて頂いております7期生の今村です。はなはだ微力ではございますが、校友会活動の活性化に努力して参りますので、宜しくご支援、ご協力お願い押し上げます。

兵庫県立緑台高等学校は、水と緑豊かな北摂、川西の地に1968年に創立され、「真理、創造、友情、誠実」を校訓に13,508名の卒業生を輩出し、地元はもとより国内外において多種多様な分野で活躍の場を広げられています。これも一重に歴代先生方の熱心なご指導と卒業生のみなさまの努力の賜物とご推察申し上げます。

さて、緑友会は現在、会報の発行、同期会・クラス会開催の支援、会員の住所管理、ホームページの維持管理、現役生徒の全国大会出場時の経済支援等の活動を行なっております。近年、卒業生の情報交換の場としてホームページを開設いたしましたが、有害な書き込みが多く只今対策に苦慮しております。新たなホームページのかたちを模索し1日も早くみなさまのお役に立つホームページにしたいと思っております。

今後、緑友会は、従来の活動を踏まえながら開かれた校友会として、みなさまの情報交換が出来る様に交流の場をもうけ、会員相互の親睦を深め、会の活性化に取り組んで参りたいと思います。

会員の方々おかれましては、これからも力づよいご指導ご協力をお願い申し上げます。最後になりますが、みなさまの益々のご活躍をお祈りいたします。

新しい時代の緑高へ向けて

校長　稲垣　　明

緑友会のみなさまには、平素は本校の教育活動のために何かとご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

本校が創設されて40年を迎えました。「緑の風」の原稿を依頼され、改めて10年前に発行された会報を見て、えっと思いました。平成10年10月発行の「緑の風」の表紙に、開校3年目頃の本校の全景が載っています。そこには、校舎と土が見えるばかりで、緑は全くありません。昨年4月に着任した時、学校の敷地周辺の木々は開校前からあったものと思いこんでいましたが、全くそうではなかったのです。校門脇や駐輪場、北館の北の傾斜地も含めて創立当時は緑がなく地肌がむき出しでした。緑台の緑は全て、開校後に育ってきたものだったのです。

育ったのは、木々だけではありません。緑高そのものが大きく育ちました。川西市内初の全日制高校であり、開校当時から地域の方々の大きな期待が寄せられていました。開校前はグラウンドと本館（それも半棟のみ）しかなく、急遽プレハブの集会室（現卓球場）がつくられました（入学式もここでおこなわれました）。文字通り何もないといっていいようなところから、生徒・教員それに育友会（現PTA）、地域が力をあわせて学校づくりが行われてきたわけです。その草創期の熱い想いは、いまも脈々と受け継がれていると言ってもいいのではないでしょうか。

本校は今、大きな転機を迎えようとしています。開校以来続いていた入学者選抜制度である総合選抜が今年度で終わり、来年度から複数志願選抜と特色選抜からなる新しい選抜制度が始まります。総合選抜のもとでは、住居に関係なく本校に入学できる者は定員の35%に限られていましたが、来年度からはこの制度はなくなります。緑高で学びたい意欲にあふれる生徒たちを迎え、より大きくはばたきたいと考えています。

緑友会の皆さまのご健勝とご活躍を祈念するとともに、これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

創立40周年を祝して

PTA会長　大面　昌美

創立40周年を迎えた兵庫県立川西緑台高等学校は、創立以来地域と共に歩み、諸先輩方のお陰で地域の方々にも信頼され、高い評価を受けるまでになりました。自由な校風と人間形成を柱とした教育方針が、緑豊かな環境の中で時代を超えて受け継がれ、今日の「伝統校」と呼ぶにふさわしい高校へと成長したことを、心よりお慶び申し上げます。このような成長をしましたのも、先生方の熱心な指導、そして、その先生方を信頼し自らが高校生活の主役であることを自覚し、精一杯頑張ってきた生徒達がいたこと。また、それらに理解を示し、見守り応援してきた保護者であったこと。それらが積み重ねられてこそと、多くの先人に改めて感謝いたすものであります。

まさに、「先人、樹を植えて　後人、涼を得る」の感があります。

さて、近年教育を取り巻く問題として、高等学校における「未履修」や、授業料の「未納」などがあり、今まで“当たり前”に行われてきたことが、そうではなくなってきている報道が多くなり、大変残念な事態です。現在、本校とは無縁であることに安堵と感謝をしております。40年という歴史を持つ本校が、これからも時代に流されることなく、良き伝統を守り続けられるように、PTAとしても努力してまいりたいと思います。

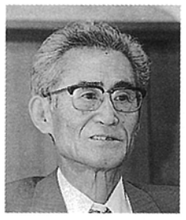
「1年の計を立てんと欲すれば、穀物を植えよ」

「50年の計を立てんと欲すれば、樹木を植えよ」

「100年の計を立てんと欲すれば、教育にあり」の諺のとおり、50年の節目に向けて立派に成長しつつあります。そして、またさらなる飛躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

絆を大切に

顧問　高垣　定光



新緑の6月、緑友会役員会に招かれ久しぶりに緑台高校を訪れた。今年は創立40周年である。この学校を退職して20年の歳月が経つ。懐かしい思いで校舎周辺を巡り歩いた。

育友会、生徒会等全校で取り組んだ植樹、卒業記念の数々の庭園、未生樹も混ざり繁っていた。創立期レグ砂漠を想像した面影はない。見事な自然環境である。学校の歴史とともに成長した樹々に敬意を表したい。

セメント色の校舎外壁は白く塗装されていたが、全景はそのままである。一期生が入学式に使用したプレハブ（現卓球場）が温存されていたのは嬉しかった。

卒業生数一万数千人。過去在職職員数百人のこの学舎での絆を大切にしたい。同期会等で卒業生に接すると母校に限りなき愛着を持っていることを感ずる。各界第一線で活躍している人材の豊富さ、多様性もすばらしい。数人が母校職員に在職していることも緑友会としては心強いことである。

多くの卒業生が愛着を持つ「むらまつり」や他の伝統行事など、自主自律の自由な校風は豊かな人間形成に役立っているのだろう。

進学がすべてではないが、公立校では県下有数の評価を得ていることは誇りである。恵まれた自然環境とよき伝統校風のもと、今後も多くの有能な人物が巣立っていくことであろう。

卒業生の皆さん、母校に誇りを持ち、同期会等で友情を深め、絆を大切にし、ますます精進発展されることを祈念します。

終わりに、歴代会長、役員のご苦労に感謝と敬意を表し、緑友会のますますの充実、発展を期待します。

創立40周年おめでとう！

前緑友会長　1期　上田　好伸

緑台高校の創立40周年を迎えて同窓会報「緑の風」Vol.7が発行されますこと、本当におめでとうございます。また、このたびの会報が発行できるのは、現今村会長及び会報発行委員の皆さまの多くの時間と労苦のお陰であると感謝いたします。

さて、私は平成8年度より微力ながら勤めさせていただいた会長の職を、平成18年度をもちまして今村会長に無事引き継がせていただきました。

終えてみますと短いものですが、その10年間は楽しくもあり苦しくもあり、役員の皆様ともども仕事を持つ身であるため貴重な時間を使いながらも会運営では種々の経験をさせていただきました。会長をお引き受けしました当初は、会長など初めてのことであり、どの様に会を運営し発展させるのか非常に頭を悩ましたものでした。しかし、そんなことを思い悩む時間もなく直ぐにアステ川西コンパス130で平成9年4月13日に開催する第1回目の総会の準備を行い、バタバタとしながらも無事開催できましたことを思い出します。

続いて同年に発行する母校30周年記念同窓会名簿および会報の発行準備と息つく暇もない程の過密とも思える強行スケジュール、名簿作成では自宅へ架かる匿名の電話、時には夜中に延々1時間の頭を突き刺す鋭い声での苦情と次々と湧き出てくるような難問の山、「あーどうしよう」大変なことを引き受けてしまった。しかし、名簿発行などの時期は決まっています、悩んでいる時間などはありません。発行委員さんと問題点を潰しながら、また貴重なご意見をいただいた皆さんの対応策を練りながらやっとの思いで卒業生1万人の3分の1の方へ卒業生名簿をお届けすることができました。名簿を手にした卒業生の方々から少ないながらも「ありがとう」の声が届き、役員一同苦労も吹き飛びました。

翌年の平成10年10月30日に行われた創立30周年記念式典では川西市長様を始め多くの来賓をお迎えしまして盛大に行われましたが、式典に併せて記念に残る催しとして9期生の三浦様にバイオリン記念演奏をお願いしましたところ、快く引き受けていただきましてクラシック音楽を堪能させていただきました、そして最後には私だけかも知れませんが記憶に残る緑台高校校歌まで演奏をいただきました。

また、緑友会では10年ごとの記念事業と5年ごとの会報発行を行っていますが、私が会長をさせていただいた10年間では2回の会報発行を行いました。前述の30周年記念式典と同時に同窓会報「緑の風」を発行しまして、その中ではテーマを「30年間の時は流れる」と題して女子生徒の制服のスカートの長さや体操服の変遷を掲載させていただいたところ年代を問わず好評を得ました。平成14年7月発行の次号（Vol.6）では、「縦のつながり、横のつながり、会の発展は同窓会から」を緑友会のテーマとしていることから、緑友会の同窓会等開催に対する補助金の効果もあり開催されました。同期会、クラス会やクラブのOB会の開催報告を掲載させていただきましたことにより、その後は毎年開催されます年度当初の緑友会理事会で各期の同期会等が活発に開催されていることが報告されております。

この10年間、会長として役員の皆様のご協力を得まして記念事業、会報の発行、各年度の事業運営など何とか責任を果たせたかなと振り返り、同時に年齢も職業も異なる様々な友人を得る機会を与えてくれた「緑友会」という繋がりに感謝しています。

また、役員として母校へ足を運ぶ機会が多いため緑校生に接しますが、誰か解らない私に「こんにちは」と声をかけてくれる気持ちの良い後輩達を目にして、これが川西緑台の歴史でありよき伝統かなと卒業生の一人として誇りに思い喜んでおります。

これからも兵庫県立川西緑台高校が地域に誇れる学校として成長し、その卒業生の川西緑台高校緑友会が他校に誇れる同窓会として益々発展することを祈念いたします。

同　窓　会　報　告

2回目の同窓会

私たち5期生は今年50歳（51歳）になりました。前回の同窓会は6年前。その時の「5年後、また元気に会いましょう。」の再会の約束から一年遅れたものの、『みんなの顔が見たい』『今会っとかないと…』の一念で開催しました。1回目の開催は2月でしたが、今回は盆休みに近いに設定しました。8月9日（土）、場所は大阪丸ビル。約100人がかけつけてくれました。その中にはお世話になった3名の先生方も参加してくださいました。高垣先生、松尾先生、岩崎先生お忙しい中ありがとうございました。

今回は前回と違い、参加者の確認から会場の選定や交渉まですべて自分たちの手（3名の有志）で行いました。この滅私奉公の精神があったからこそ開催できた同窓会でもあったのです。同窓会直前の楽しみは、各クラスで男女各一名ずつ選ばれている幹事の集まる大決起集会です。当日の盛会を誓っての楽しい飲み会、別名プレ同窓会です。大いに盛り上がったのは当然のことです。これがクラス幹事の役得です。

同窓会の会場は、懐かしい顔、楽しそうな笑顔にあふれ、和やかな時間が流れたことは言うまでもありません。同級生とは不思議なもので顔を見ると当時の思い出や記憶が泉のように湧いてくるものです。いにしえの恋愛話、甲子園に応援に行った話、一年生の臨海学校が楽しかったから二年生になっても行った懐かしい話、等々。それほど緑台高校の思い出は、五期生全員にとっての宝物なのです。あっという間の二次会も含めての5時間でした。

また5年後。元気に会いましょう！！！その時は立食形式でも、もっとイスが必要になるかもしれませんね。

学年代表幹事　仲上 昭次
代筆　緑台 五郎

発展途上なぼくたち

卒業してから二年。

それからも何度も会ったやつ、一度も見てないやつ。今みんなはどうなっているのだろうか。懐かしいようで懐かしくないような、そんな不安と期待のいりまじった気持ちで同窓会へ。

バカしてたあのころのままのあいつ。急に大人びたように見えるあの子。みんな盛装しているせいかよそよそしく違う場所へ来てしまったような気がする。みんな変わってしまった。自分一人取り残された感じ。

でも、そうではなかった。ちょっと話してみると、あのころと変わらない。一気に懐かしさがこみ上げてくる。昔と同じやりとりが始まる。大学では全くできなかったやりとり。言葉を交わしているうちに、それに引きずられて、気分は高校時代へ立ち戻る。放課後の教室でいつまでもしゃべっていた時間、そんな時間の流れ方。制服からスーツやドレスへと、見た目は変わったかもしれないけれど、雰囲気というか中身は変わっていない。それは自分も同じ。昔と同じやりとりができる自分は、昔のままの自分でいられている。新しい生活が始まり、新しい友達ができ、自然と流されてあのころの自分を見失ってしまったみたいだったけど、昔のまま。

会話のネタは尽きないが、先に時間が尽きる。懐かしさに包まれて安らぎ、楽しかった時間も終わり。ただ楽しかった。このような時間がまたあればいい。

けど、寂しかったこともある。「変わっていない」というそのことだ。二年という時間の流れを感じることはほとんどなかった。今度会うときは、たぶん仕事をもっていて、もしかしたら家庭をもって子供もいるのかもしれない。そのとき、「昔の私とは違うんだよ」と胸を張って言えたらいいな。「あいつ」は今どこかで必死に何かをがんばっているだろう。僕もがんばろう、自信を持って「あいつ」にまた会えるよう。

今度の同窓会は、みんなが「変わった自分」を互いに誇れるようであったら、と願います。それまで、あの懐かしい思い出を糧に、あの楽しい時間がまた来ることを楽しみに、「あいつ」に負けないよう精一杯生きていきましょう！

35期生　佐々木 淳希

語り合い、語り継ぎ、そして語り始めよう新たな夢へ向けて

平成20年8月16日（土）に5回目となる第四回卒業生で作る緑友四期会の同窓会を開催しました。

卒業して15年が過ぎ、それぞれの人生、生活が安定してきた頃に第１回目の同窓会を開催しました。それから、おおよそ5年置きに開催してきました。

第1回目の開催に当たっては、連絡先不明者の洗い出しを行う等大変な作業でしたが、緑友会や同窓生の協力により、ほとんどの方と連絡を取ることができました。そして15年ぶりとなる第１回目は卒業生366名中120名もの参加があり食事をする間も無いくらいに、懐かしく語り合うことができました。その後、この第5回の同窓会まで毎回多数の方に参加していただいています。

今夏の同窓会では、私達も50歳を過ぎ、次の人生を考える歳になるということで、「語り合い、語り継ぎ、そして語り始めよう新たな夢へ向けて」と題し開催しました。

5年置きに開催してきた同窓会ですが、私達も人生の折り返しを過ぎ、そして丁度北京オリンピックが開催された年だったので、これからは少し期間を短縮して4年置きのオリンピックイヤーに開催しようということになりました。

今回も同窓会の次期開催役員を選出し、次回の開催につなげることができました。これも偏に緑友会を母体として緑友四期会みんなで盛り上げられたからだと思います。

立場を越えて高校生の頃に戻って語り合えるすばらしい場です。これからも多くの方が参加し、続いていくことを願っています。

最後にお手伝いいただいたクラス幹事さんや開催にご協力いただいた緑友会にお礼申し上げます。ありがとうございました。

緑友四期会第5回代表　徳永　直毅

在校中の思い出

40周年おめでとう!!

1期生　乾　康江（旧姓　上杉）

乾杯！ここ数年、同窓生数人と集まっては飲み会をしている。緑台ではあまり話す機会もなかった不思議な組み合わせの面々だ。多感な頃は、何から守るのか、せっせと壁を作ってみたり、漠然とした不安に苛立ってみたり…いくつかの時代を経て、人生も半世紀を過ぎると、少しは気持ちにゆとりも出てきた様だ。アルコールが回を重ねる毎に、卒業以来の空白の時を饒舌に満たして行く。まるで数十年来の友の様だ。

いつも想う。いい時代に生まれ、平和な国で生きて来られた事を、ここに居る奇跡を。テレビができ、自動車や電話が普及し、小学生ですらパソコンを操る。様々なものが発明され、発見され、進化し溢れ出す大きなうねりをずっと見て来た。時代の傍観者を気取るつもりはないし、これから先どこまで見届けられるか判らない。が、それでも面白い時代だったと想う。40年――過ぎてしまえば短い。緑台はどんな風になったのだろう。

あの頃、学校の周辺は整備された空き地が目についた。『一期生』には良くも悪くも滅多に当らない。入学式はプレハブ校舎だった。小石拾いをしていた校庭は、県下でも1、2を争う広さだったが、先輩のいないクラブの対外試合は惨憺たるものだ。私のいたバスケは、102対2で負けた事がある。あまりの大差に皆大笑い。卒業して進む道も枝葉の様に分かれて行ったが、時にタイプスリップできる仲間がいるのはいいものだ。今も何かあれば、時間をやり繰りしたり遠路遥々駆けつけてくれる。そういう人達が緑台にいた、という事だ。感謝。風の便りに、緑台が有数の進学校になっていると聞く。隔世の感がある。優秀な後輩に恵まれ不出来な私も肩身が広い！さすがに40年、侮れない。

最後に、様々なシーンでご尽力頂いた関係各位の皆様にも感謝。これからも益々の発展、お祈りしていますね。

高3の7月

7期生　小島　寿和

私の緑高での生活を振り返ると、高3の7月をいかに迎えるかの一点に絞られていました。野球部に所属していた私にとって、遥かな夢であっても「甲子園」という存在が常に頭にあり、その実現に向けて大真面目に高校生活を送っていました。

当時私は、チームの副主将でした。主将は、小・中・高共に野球をしてきた辻本君。高校入学当時は10数人いた同級生部員も、ひとりまたひとりと辞めていきました。そして、とうとう高2の8月には、辻本君と私の2人だけになりました。1学年下の部員はさらに少なく、1人しかいませんでした。という訳で高2の秋から冬はこの3人で活動しました。部員3人では、できる技術練習も限られていました。そのかわり、当時顧問をしてくださっていた体育科の長井先生と共に、走ることとトレーニングはかなりしっかりやりました。お陰で丈夫な体になりました。高3の春、11人の新入部員が加わりました。その新戦力に助けられ、夏の大会は1回戦を突破することができました。2回戦は、シード校に5回コールドゲームで負けました。「これで自分の甲子園への挑戦は終わった。もう高校野球はできない。」と思うと泣けてきました。このときばかりは、人目をはばからず泣いてしまいました。

こうして高3の7月、私の高校野球人生が終わりました。そして、卒業後の進路を考えることになりましたが、その際もここまでの高校野球での活動を通じて感じた事が大きな影響を与えることになりました。野球部には、3年間専任の監督がいませんでした。そのかわり、公式戦の度にOBの大学生が交代で監督をしてくれていました。そのOBの方々には感謝の気持ちでいっぱいでした。反面、普段の学校生活から見てもらえる「顧問の先生が監督をしてくれたらなぁ。」という思いも強く持ちました。この思いが、将来の進路を体育学部に決める大きな動機になりました。そして今、高校の体育教員として野球部の顧問をしています。

どんな悪い条件や苦しい状況であっても、「甲子園」という夢を実現するために真剣に取り組み、最後までやり通すことができました。この高校3年間の活動や、物の考え方が今の私の原点であるといえます。

高3の熱く切ない7月を私は忘れない。

センバツ出場記念碑
体育館南グランド側

たくさんのことを学んだ高校時代

18期生　大林　由佳

緑台高校の3年間。一言でいえば「やりたい放題」。先生方から「～しなさい。」と言われた覚えがあまりない。何でも自分で決めて自分でやっていた印象が強い。学校行事も部活動も進路決定も。今になれば、先生方が私たちの見えないところでいろいろ動いてくださっていたのだろうと思えるのだけれど、高校生だったころはわからない。先生のありがたみを十分に感じないまま卒業してしまった気がする。その代り、自分ができることは精一杯やって卒業したという思いは強いかもしれない。

では何を精一杯やってきたのかと聞かれると少し困る。そのときは自分が必死ですごいことをやっているつもりでいても、今振り返ればたいしたことではない。「その程度のこと？」と言われるようなことばかり。みんなそうなのだろうか。でも、「その程度のこと」でも「やればできる」という経験をたくさん積むことができた。

体育祭のリレー。第1走者になり、トップでバトンを第2走者に渡すことができた。それまで運動が苦手だった自分にとっては、短距離で1位になるなんて信じられないことだった。

部活動の演奏会。パンフレットを作るのに、市内を自転車で回って広告を集めた。お店との交渉がうまくいけばお金が集まる。赤字を出さずにパンフレットが仕上がった時、大きな達成感を得た。

人との出会い。多くの人

との関わりの中で、自分を受け入れてもらうことができた。器の大きい人が多かったのかもしれない。そんな人たちに囲まれて、楽しい時間を過ごした。いろいろな影響も受けた。自分が変われたような気がしている。

他にもまだまだ多くの「やればできる」という経験があった。

毎朝平野駅からの坂道を歩いてあがるのは大変だったけれど、それも今となってはいい思い出。今フルマラソンを完走できるだけの基礎体力があるのは、間違いなくあの坂道のおかげだろう。

いろいろな意味で、緑台高校に通ってよかったと思う。

高校時代を振り返って

21期生　木村　和人

私たちが緑台高校に在籍していた90年代前半は、バブルが崩壊し始めた頃ですが、世の中は依然活気に溢れており、トレンディードラマと呼ばれた恋愛ドラマが次々にヒットしておりました。改めて卒業アルバムを見返しますと、その主人公の髪型そっくりさんがたくさんいるので笑えてしまいます。そんな中で緑高生も、エネルギーに満ちあふれ、学校一丸となって邁進していることを実感しながら日々生活しておりました。

当時も部活動が盛んで、どの部も勢いがありました。今よりも下校時刻が柔軟だったからかもしれません。私も硬式野球部に所属しており、高松監督のご指導のもと、平成2年春に第62回全国選抜高校野球大会に初出場させていただきました。県大会を2位で勝ち上がり、近畿大会で強豪校を倒し堂々ベスト4に進出したことは、まさに学校の勢いを象徴するものでした。野球部以外でも、弓道部や陸上部、放送部などが全国大会に出場されたことを記憶しております。どの部も顧問の先生方は、決して偏った指導をされず、個に応じた指導で上手く力を引き出していただいたことが好成績につながっていたのではないでしょうか。私たちも普通に集まったメンバーで高い目標を設定し、切磋琢磨することで県の上位に進出できたことが大きな誇りでした。共に努力し、本音でぶつかり合った仲間達は今も大切な財産です。部活動の後は近くの駄菓子屋や肉屋でお腹を満たしながら、雑談に花を咲かせたことも思い出です。

また、「むらまつり」等の行事におけるエネルギーは凄まじく、綿密に計画され大胆に実行される姿から、緑高生の持つ可能性を感じさせるものでした。これらは全て先輩方から長く受け継がれる「挑戦し前進し続ける」という校風と、先生方が大きく伸ばすご指導をしていただいたことによるものと、今さらながら感謝しております。

私は今、近隣の高校で教師をしております。今の自分があるのは、高校時代があるからです。高校時代に学んだ、「目標に対して挑戦することの素晴らしさ」を伝えるために教師になりました。今後もこの思いを忘れることなく、後輩の活躍を見守っていきたいと思います。

緑高との思い出

32期生　東畑　優太

「もしも、昔に戻れるならいつに戻りたい？」

友達と飲みながらよく出てくる会話。その時は、いつも「高校生」と即答する自分にとっては、高校三年間の出来事は心に強く残っているし、楽しかった思い出がたくさんあるんだろうな。昔話をしていても緑高であった出来事が今でもおもしろおかしくネタになったり、そんなこともあったなぁ！と意気投合することがたくさん。何年たっても同じ話で盛り上がるんだろうなって思いながらも、絶対あきのこないネタ話。それが思い出話のすごいところかな。

私は、緑高32回生なので2000年に入学し、卒業してから5年が経ちました！卒業してすぐ働き始めた子や、短大や専門行って社会人何年目かの子もいるし、大学卒業してからの子は社会人2年目突入。そういう友達から社会の大変さを聞きながら、私みたいに1年遅れで今年から社会人1年生を頑張っている友達も。もちろん、大学院に行って猛勉強している友達には頭が下がります。今ではみんなそれぞれ自分の道を突き進んでいるわけですが、3年間毎日あのキツイ坂を必死で自転車こいで登って、チャイムの音を待ちかまえている先生に閉められる玄関までダッシュしてたこと、門を通過してからもまだ心臓破りの坂が待っていた辛い道のり。部活では、絶好の練習場所になっていたけれど♪

高校三年間の思い出なんか多すぎて書ききれるわけもないので、みなさんの楽しかったあの日を思い出してみてくださいね。私の中での一番の思い出は、やっぱり野球づけの毎日。弱小でもやればできることを春に証明したにもかかわらず、夏１回戦で負けるという苦すぎた高校野球もいまでは、楽しい思い出です。緑高野球があったからこそ大好きな野球を大学でも続けれたこと、そして大学野球で鍛えたおかげで、１年間緑高野球のコーチで後輩達の野球に関われたこと。

そしてこの間、小学校の運動会で使うために、和太鼓を借りに緑高へ。その大きな太鼓とは、代々野球部が大会の応援に声だしで使う和太鼓。私もこの太鼓を聞きながら声が枯れるまで応援していました。運動会では、太鼓の力強い響きにパワーをかりますね。こうやって今でも高校と繋がっていけることで、これからも「緑高との思い出」はどんどん増えていくのかな！

求ム！ 緑友会同窓生の情報をお寄せ下さい。

前号まで、各期の同窓生の中で、会報発行時に住所等が不明であった方々のお名前を掲載しておりましたが、昨今の個人情報保護の観点より、今回からは掲載を取りやめることとしました。

それでも、今後の緑友会の活動において同窓生の皆さまの情報は欠かせないものですし、できる限り住所等の変更については事務局までお知らせいただくようお願いをしております。しかしながら、そのすべてを事務局が把握できているわけではないのが現状で、今後の活動に影響を及ぼすことも考えられます。

そこで、今回この会報がお手元に届いておられる皆さまにお願いですが、同窓生のご友人・先輩・後輩で、この数年お引越しをされたり、ご結婚されたりで、お名前やご住所等が変わられた方の情報を事務局までお知らせいただけませんか？もちろん、知らせてほしくないという方の情報は結構です。わかる範囲で構いませんので、趣旨をご理解のうえ、なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

「緑友会」事務局連絡先　〒666-0115　川西市向陽台1-8　兵庫県立川西緑台高校内
TEL：072-793-0361　FAX：072-793-0520

クラス会・同期会開催補助金制度のお知らせ

クラス会・同期会を開催される時、同級生・同期生全員（住所不明者を除く）及び恩師を対象に送付する開催案内状の郵送費の一部を補助する制度です。ぜひご利用ください。

クラス会　一律 ¥5,000（在学中の各クラス、但し3年ごと）
同 期 会　初回 ¥50,000　2回目以降 ¥30,000

★開催前に補助金申請書で手続きを行ってください。　★開催後に当日の集合写真及び名簿訂正届けを提出ください。

※詳しくは緑友会事務局までどうぞ

編集後記

◆今回は創立40周年記念号として発行いたしました。これまでよりも多くの方から寄稿していただいたので、文字数は圧倒的に多いと思います。その分読みごたえはあったのではないでしょうか。◆まずは原稿を寄せていただきました皆さまと、お忙しい時間を工面してこの会報に携わっていただいた会長をはじめとする委員会のメンバーに、感謝したいと思います。本当にありがとうございました。◆本来は緑友会としても学校の周年事業に関わるところですが、40周年に関しては周年事業を行わないということで、会報の発行のみとなりました。◆これまでの会報では、過去を振り返ってさまざまなものの変遷を追って、時代の流れを見てきましたが、今回は若干趣を変えて「今の」川西緑台高校の風景を掲載することで、皆さまの高校時代からの違いなどを見ていただくページを最終面に用意しました。撮影日は見事な日本晴れで、きれいな写真が撮れたと思います。また実際にご覧になることでいろいろな発見もあると思いますので、ぜひ学校にも足を運んでみてください。◆前回の会報からこれまでに多くの期の方が、同期会・クラス会を行っていただき、交流を深めておられます。そこから発生する旧くとも新たな出会いが、同窓生の皆さまの人生にも大きな発展をもたらすこともあります。補助金制度もありますので、まだ行っておられない期の方はぜひとも開催してください。◆今回から「不明者リスト」を廃しています。個人情報保護の観点からですが、毎回このコーナーのおかげで緑友会会員の正確なデータが構築できていただけに、委員会としても今後のデータの整備に不安が残ります。この会報を受け取っていただいた皆さま方には、ぜひとも同窓生の情報を事務局までお寄せいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。◆次回発行は5年後を予定しております。会報で扱ってほしい内容、特集などがあれば、事務局までご遠慮なくお知らせください。今後ともよろしくお願いいたします。

編集委員：上田好伸（1期）／今村加寿成／（7期）／池田千晶（10期）／宮脇信行（17期）／田中慎平（35期）／幾波将一（35期）／高瀬伸介（17期）

●同窓会員データについて●

兵庫県立川西緑台高等学校同窓会は、株式会社廣済堂へ個人情報に関わる業務を委託しております。

会員データに関するお問合せ先
(株)廣済堂　文教ソリューション部
お客様相談センター
TEL&FAX　0120−058−651
(月～金　10:00～17:00/土･日･祝日は休み)
郵便番号　560−8567
住　所　豊中市蛍池西町２−２−１

上記時間以外については専用FAX・専用アドレスをご利用ください。
※訂正・不明者情報専用
FAX(06-6857-0449)
※情報専用アドレス
db-privacy@net.kosaido.co.jp